

投稿

伊勢原の日向神社について

島口 健次

伊勢原の日向薬師の近くには日向神社がある。日向薬師の守護神として今日に至る。

この神社の御神体は白髭明神と呼ばれる神で、長いあごひげをたくわえ、異国の冠をつけた木造の姿で祀られている。天智7年（668）朝鮮半島の北部にあった高句麗は唐に滅ぼされ、高麗王の若光に率いられた一団は、海を渡って日本に亡命、大磯の浜に上陸し、唐ヶ原（大磯町と平塚市）に居住した。当時渡来した人々は高い文化を持ち、多くのことを知っていたので、この辺りは早くから高度な大陸文化がひらけることとなった。この高麗若光こそが白髭明神である（続日本紀）。この若光は伊勢原の日向から新たに設けられた武蔵国高麗郡の大領に任じられて移り住み、そこで没した。今では埼玉県日高市の高麗神社に祀られて

いる。

若光は元正天皇の霊亀元年（715）日向山に來た行基が日向薬師の薬師三尊像を彫ろうとして、良材がなく困っていたところ、それを見た若光が数尺の香木を与えて協力し、日向薬師開山に貢献したと言われている。日向薬師の守護神としてその功績を賞し、若光を祭神としてその功績を賞し、若光を祭神として祭る一方、併せて熊野権現を勧請し、参道入り口に日向神社を創建したのが始まりという。社殿は本殿、拝殿、三棟一宇、流れ造りである。

厚木歴史研究会では講演会で五年前から若光と日向神社、日向薬師の歴史を講演する一方、史跡ウォークを行っている。